



公立高校入試直前対策 (理科・社会)

最近の公立高校入試の問題は、基本的な「知識・技能」を問うものと「思考力・判断力・表現力」を問うものとの二極化が進んでいます。その傾向が顕著にあらわれているのが理科と社会です。

理科 「知識の活用」と「複数選択」が増加

理科は、すべての問題が難化しているわけではなく、基礎的な知識を問う問題も多く出題されていますが、これまで以上に「正確な知識」とその知識の「活用」が重視されています。例として、次の問題を比べてみてください。

<問題例>

千葉県 大問8

正答率
60.5%

(3) ② 水素と酸素が化合して水ができるときの化学変化を化学反応式で書きなさい。

解答 $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$

『ENJ』 vol.46 p14より

東京都 大問5

正答率
13.4%

<実験3>

燃料電池用の電極を使用して水酸化ナトリウム水溶液を電気分解。その後、電極から電源装置を外して光電池用モーターをつなぎ、モーターが回転する様子を観察した。その実験の手順を、図と文章で説明。

〔問3〕 <実験3>で起こる化学変化のうち、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されるときの化学変化を、化学反応式で書け。

解答 $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$

『ENJ』 vol.46 p14より (□内は問題文の内容を要約)

この2つの問題は、解答は同じものの出題の仕方は大きく異なります。東京都の問題は知識の「活用」が求められるもの。化学反応がどのような実験の時に起こるのか、実験がどのように展開されているのか理解している必要があり、化学反応式の丸暗記では解けないでしょう。

また、昨年と同様に「選択肢の中からすべてを選べ」という複数選択の問題も、22県と多くの県で出題されました。問われているのは基本的な内容でも、複数の選択肢からすべての答えを選ぶため、正答率は低くなっています。

さきほどの問題にあった正答率の大きな差が示すように、知

識は得ただけ、つまり丸暗記しただけで「活用」できるわけではありません。一問一答形式で学習する時は周辺知識も関連づけて覚え整理したあと、さまざまな問題集で実的な問題にチャレンジして知識を「活用」する力を身につけていくことをおすすめします。

社会 “資料を読み取り、記述で答える” 思考力系の問題が増加

社会の思考力系問題では、表やグラフなどの資料を読み取り記述で答える形式が増加しています。特に「地理」「公民」で多く出題され、現代社会を反映したテーマが多いことも特徴です。たとえば「フェアトレード」は、2018年度入試において5県で出題されました。

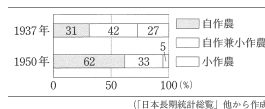
多くの自治体で基本的な知識を問う問題が得点源となっている一方で、記述問題は「歴史」も含めて正答率が低い傾向にあります。記述問題ができるかどうかの合否の分かれ目とも言えるでしょう。

<問題例>

岡山県 大問1

正答率
25.0%

⑨ 太郎さんは、下線部(g)の一つである農地改革に注目し、自作農と小作農の割合の変化を示す右の資料を作成した。資料にみられる変化について、農地改革の内容にふれながら、「地主」ということばを用いて説明しなさい。



解答例 政府が地主の小作地を買いあげて小作人に安く売り渡したので、自作農の割合が増加した。

『ENJ』 vol.46 p27より

「農地改革」は近代史の重要項目であり最頻出問題ですが、記述問題のためか正答率は25%と決して高くありません。

社会の学習では、用語などの正確な知識を身につけることが大前提ですが、さらに「なぜ?」という視点でその内容を捉えるトレーニングが効果的です。農地改革の意味だけではなく、なぜ農地改革が行われたのか、その理由や成り立ちなどの背景を知ることにより理解が深まり、知識が定着しやすくなるでしょう。
(教材編集長 上野伸二)

編集長の

ここですよ
ポイント

- 理科：一問一答では周辺知識を関連づけて覚え、問題集で知識の活用を練習
- 社会：「なぜ?」の視点で内容を捉える訓練が、深い理解と知識の定着につながる